

9月は知的障害福祉月間

鹿児島県知的障害者福祉協会の取り組みと今後の展望



鹿児島県知的障害者福祉協会
会長 水流 純夫氏に聞く

■協会の概要と、知的障害者に対する支援について

当協会は、鹿児島県内で主に知的障害者を支援する福祉施設を運営する事業者が加盟している団体で、現在、297事業所が加盟しています。

事業としては、二事業所でないかな取り組めない各施設職員の研修会や利用者が一堂に会する球技大会(クラウンドゴルフ、ソフトバレーボール、テニスなど)、文化祭、作品展即売会、成人を祝う会などを開催しています。

最近では、国も推奨している農福連携に取り組み事業所も増え、マルシェを通して一般の方の理解も深まっています。また、就労継続支援事業所や就労移行支援事業所も増え、一般企業で障害者を雇用する気運も高まっております。以前にも増して障害がある人となりが共生する社会が構築されつつあると実感しています。

■さくらじま知的障害者生活サポート協会について

この協会は、障害者のための保険を扱う全国知的障害者生活サポート協会の鹿児島支部になります。AIG保険会社の生活サポート総合補償制度を活用して、障害者が病气や怪我で入院した場合の入院補償や他人に損害を与えてしまったときの賠償責任補償などを行い、障害者が安心して生活できるように努めています。鹿児島県知的障害者福祉協会に加盟している事業所のほとんどが加盟しており、そういう意味で両協会は表裏一体の関係にあります。

■現在の取り組みについて

県知的障害者福祉協会が開催している障害者の作品展示の即売会は50年ほどの歴史があり、現在は山形屋前のベルグ広場で、「WAQ WAQ SQUARE」(わくわくスクエア)という名前で行って年一回開催しています。障害のある方々が各施設で作った食品や加工品、農産物などを販売しますが、これまでは障害者が作ったことを前面に出した販売でした。しかし、障害のある人もない人も同じ社会で生きていける共生社会を実現させるには、このやり方では両者の出会いは生まれません。

そこで、「WAQ WAQ SQUARE」として開催してからは、あえて障害者が作っていることを前面に出さず、商品で勝負する形にしました。先入観を持たずに商品を手にするので、障害のある人となりが自然な形で出会い、ふれ合えると思います。

商品で勝負するからには、商品のクオリティを高める必要があります。プロのクリエイターに指導を仰ぎ、商品の質やラッピング、見せ方、値段表示の仕方を学ぶなど各施設も努力を重ねており、商品の価値も高まっています。



社会福祉法人 信成会
日置市東市来町湯田7107-8 TEL.099-274-2061

- ふるさと学園
- ふるさとの森
- ふるさとのWA
- すてっぷはうす

運営施設

鹿児島県知的障害者福祉協会
さくらじま知的障害児者生活サポート協会
加入施設

〒890-0064 鹿児島市鴨池新町1-7 県社会福祉センター4F
TEL.099-256-6796 FAX.099-250-9358
ホームページ <http://kagoshima-aid.net/>

形や色はちがうけど、皆で出来ることが有る。

社会福祉法人 真 奉 会

理事長/統括施設長 大村 貢

〒899-5116 霧島市隼人町内2068
TEL.0995-44-7111 FAX.0995-44-7112
<https://shinpoukai.jp>

社会福祉法人 白 鳩 会

理事長 中村 隆一郎

〒893-2501 肝属郡南大隅町根占川北2105

社会福祉法人 あすなろ福祉会

理事長 山本 森満

〒891-0705 南九州市穎娃町上別府字西場6543番
TEL.0993-39-1206 FAX.0993-39-1435
メールアドレス: asunaro@wine.ocn.ne.jp